

「自他のよさを認め、よりよい人間関係を築いていくことができる児童の育成」

—思いやりの心や感謝の気持ちを育てる道徳教育を目指して—

弥富市立桜小学校 大形 芳江

## 1 ねらい

本校では、「児童一人一人のすぐれた個性を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに規則や規範を大切にすることを育成する」を目標に、一人一人が輝き、自己有用感・自尊感情に満ちた笑顔いっぱいの児童を育て、元気・やる気・思いやりのある学校を創造することができるように日々教育活動を推進している。

しかし、昨年度末、高学年児童・保護者を対象に行った「学校づくりアンケート（学校評価）」では、「友だちがたくさんいる」と回答した児童が9割を超える一方で、「いじめのない学校」と回答した児童・保護者は8割程度であった。また、「子どもに思いやりの心が育っている」と回答した保護者も8割程度であった。児童の様子を見てみると、相手の気持ちを考えない短絡的な言葉を発したり、自分の思いを上手く伝えられず、感情のすれ違いによる些細ないさかいを起こしたりしていた。こうしたことが、児童にいじめや暴力と認識されていたのではないかと思われる。

本年度4月、本校は過大規模校解消のため分離し、児童数が983名から406名となった。児童数が減少し、教師が児童全体を把握しやすくなったこともあり、校内は落ち着いた雰囲気になった。しかし、安易に相手が傷つくような言葉を発するなど、自分の発言が周囲に与える影響について考えることができない児童が、いなくなったわけではない。

そこで、「自他のよさを認め、よりよい人間関係を築いていくことができる児童の育成」というテーマの下、道徳教育の研究を進めることにした。まず、各クラスで行われていた「いいこと見つけ」を、江戸しぐさになぞらえた「桜っ子しぐさ」として全校に広め、自他を大切にする心と態度の育成を目指す。また、ユニバーサルデザインを道徳などの授業に取り入れ、どの児童にとっても分かりやすい授業、楽しい授業の創造を目指す。そして、児童が多様な道徳的価値にふれ、それらを認め合う中で、互いによりよく生きていこうとする心と態度を培っていくことにした。

## 2 めざす子ども像

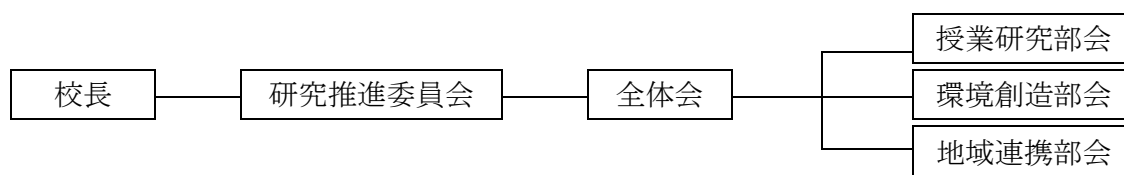
- ・ 励まし合い、協力することができる子
- ・ 友達を思いやり、認め合うことができる子
- ・ 誰にでも親切にできる子

## 3 研究の方法

### (1) 研究の仮説

児童が活発に意見を交流し、多様な考え方を引き出すことのできる道徳の授業や、心を育てる体験活動の場を設定すれば、自己を見つめ、友達がかけがえのない存在であることに気付き、尊重する気持ちをもつことができるであろう。

### (2) 研究の組織



(3) 具体的な手だて

- ① 道徳的実践力を育成していくための授業展開の工夫（授業研究部会）
  - ア ユニバーサルデザインを取り入れた授業実践
  - イ 児童の多様な考えを引き出し、活発に意見交流ができる授業の工夫
- ② 道徳的価値が意識できる環境づくり（環境創造部会）
  - ア 互いに認め合い共に学び合う場の設定
  - イ 身近な集団である学級の中で道徳の時間を活用する手だて
  - ウ 価値を分かりやすく伝え、集団を啓発していく校内掲示の工夫
  - エ ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境づくり
- ③ 地域との連携（地域連携部会）
  - ア ゲストティーチャー、地域人材を活用した道徳の時間の工夫
  - イ 道徳性の育成を図る地域に根ざした道徳教育の場の設定

4 研究の実践

(1) 道徳的実践力を育成していくための授業展開の工夫

- ① ユニバーサルデザインを取り入れた授業実践
  - 一人一人の教育的なニーズに対応していくため、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、授業を焦点化（シンプル）、視覚化（ビジュアル）、共有化（シェア）した。
    - ・ 場面絵を効果的に掲示しながら、物語の内容を理解しやすいようにする。  
(場面絵の活用 → ビジュアル)
    - ・ 価値に迫る話し合いを行うために、中心となる部分に絞って話し合う場面を設定する。  
(場面の焦点化 → シンプル・ビジュアル)
    - ・ 中心発問で話し合いを深めるための切り込み発問（葛藤させ心を揺さぶる発問）を青で、話し合いの中心となる発問を赤で示すことにより、児童が理解しやすいように視覚的に工夫する。  
(中心発問と切り込み発問の工夫 → シンプル・ビジュアル)
    - ・ 板書に児童名のマグネットを貼り、友達の意見を認め自分の考えた意見を発表するなど、話し合いを深めるようにする。  
(板書の工夫 → ビジュアル・シェア)

② 児童の多様な考えを引き出し、活発に意見交流ができる授業の工夫

○ 4年道徳「ないた赤おに」

<ねらい>

友達と互いに理解し、信頼し合うとともに、友達を思いやる気持ちを育てる。

<実践>

教師が範読を始めると、どの児童も物語に引き込まれ、集中して聴くことができた。中心発問の話し合いの場面では、主人公の気持ちをより深く考えるようにした。多くの児童の意見を板書し、話し合い活動を活性化した。さらに、自らの体験を振り返って、もう一度価値について考えることができた。

<考察>

有名な物語だが、赤鬼と青鬼の心情が交差し合う難しい内容である。場面絵を活用すること

で、話の重要な場面を押さえることができた。「思いやり」という価値がぼやけてしまわないように、赤鬼の気持ちが大きく揺れ動く場面だけに絞って気持ちを考えさせた。主人公赤鬼の本音を引き出すために、教師が青鬼役になり、役割演技を行った。役割演技をすることにより、児童は赤鬼の揺れる気持ちに寄り添うことができ、有効であった。中心発問では、後悔する赤鬼の気持ちを深く考え言葉にすることができた。



【役割演技を取り入れて】

4年生になって初めてのころは、自分の意見のみで、他の児童と意見交流を行えなかったが、授業の組み立てを工夫することで、自分の考えをもとに友達と意見を交流させることができるようになってきた。また、発言が多くなり、様々な価値に触れることができるようになったことは、大きな成果である。児童から出た多様な価値で、話し合いを深め、より高い価値へと結びつけていく話し合い活動をこれからも行っていきたい。

## (2) 道徳的価値が意識できる環境づくり

### ① 互いに認め合い共に学び合う場の設定

#### ア 「いいこと見つけカード」の交換

<ねらい>

毎日の生活経験を通して、人と人との関わりを学び、思いやりの心をもつ。

<実践>

児童が、友達に優しくされたことや助けられたこと、協力してもらったことなどを、帰りの会の時間にカードに書き、金曜日にたまった一週間分のカードを交換し合う活動を行った。最初は、「鉛筆を拾ってもらった」「消しゴムを貸してもらった」など些細なことしか気付かなかったが、やがて「進んで給食の食器を片付けていた」「黙って掃除道具の整頓をしていた」「やる気が出る言葉をかけてくれた」など、友達の良いところを見つける視点が変わってきた。児童は、カード交換を楽しみにしており、もらったカードをじっくり読む姿が見られた。

<考察>

この活動によって、児童は友達を認めること、自分を認めることの両方ができるようになってきた。ある児童は、最初は自信が無く、友達と交友関係がうまく築けず、否定的な言葉を発していた。しかし、この活動を行うことにより、だんだん自信をもてるようになり、進んでクラスのために仕事をしたり、友達と仲良く遊んだりすることができるようになった。



【カードをもらって嬉しいな】

こんなちっちゃなことだけなのに、カードをもらったり、ほめてもらったりされると、とてもうれしかった。「これからも、もっとつづけられるといいな。こんなことだけでなく、もっと他のことにもがんばりたいな。」と思いました。クラスみんなできょうかしあって、もっとなかよくするクラスにしたいです。

【カードをもらってこんなことを思ったよ】



【桜っ子しぐさってすてきだね】

#### イ 生活委員による「桜っ子しぐさ」の紹介

<ねらい>

全校児童で思いやりや助け合いの心を育てるために、「桜っ子しぐさ」を全校児童に伝え、広めていく。

<実践>

江戸しぐさになぞらえて、桜小学校の友達を思いやる行為を「桜っ子しぐさ」と称し、思いやりのある行為や、友達と助け合っている行動をしている児童の紹介を行った。取組の初めのころは、「桜っ子しぐさ」の意味を児童がきちんと理解していなかった。そこで、各学級で具体的な行為について考え、その後、「桜っ子しぐさ」を行っている児童を学級から1名選び、「桜っ子スマイル集会」で生活委員が紹介した。紹介された児童は、笑顔で皆の前に立ち、全校児童から温かい拍手を受けた。

<考察>

生活委員が、校内を巡回しながら、「桜っ子しぐさ」をしている児童を見つけようとしたが、なかなかうまく見つけることができなかった。しかし、クラスで「桜っ子しぐさ」について話し合った後は、進んで良い行いをする児童が増えた。選ばれた児童は、名前とともにどのような「桜っ子しぐさ」をしたのか内容も紹介され、自分の行いが周りの人から認められ、自己肯定感を高めることができた。

#### ウ 桜っ子スマイル集会

<ねらい>

全校児童が学年の枠を超えて交流を深め、思いやりの心や、いたわり合う気持ちを育てる。

<実践>

児童会役員が自ら集会のねらいを考え、プログラムも考案した。また、図書委員と生活委員も一緒に集会を運営した。図書委員が友達の良さを感じる絵本の読み聞かせを行い、生活委員が「桜っ子しぐさ」の表彰を行った。児童会が異学年で仲良くするゲームを行い、児童主体の集会となった。

<考察>

昨年度までは過大規模校であったため、異学年で交流する集会を行うことはなかなかできず、児童にとって初めての経験であった。集会を運営した児童は、全校児童が楽しそうに会に参加していることに満足感を感じていた。また、参加した中学年の児童は、「話したことがなかった友達に声をかけることができた」と振り返りカードに書いていた。みんなの心がほっと温くなるような集会になった。



【仲間集めゲームは楽しいね】

② 身近な集団である学級の中で道徳の時間を活用する手立て

道徳の授業における読み物教材は、「明るい心」を中心に、他の出版社の読み物教材などから、できるだけ児童の実態に即した資料となるようなものを選んだ。また、道徳の時間で活用したワークシートや集会などの振り返りカードを「道徳ファイル」に記録として残し、自分自身の成長の証として認めたり、自尊感情を高めたりすることに役立てている。

③ 価値を分かりやすく伝え、集団を啓発していく校内掲示の工夫

江戸しぐさのイラストを示し、このような行為は相手を思いやる優しい行為であることに気付かせ、「桜っ子しぐさ」をより広めていけるように、全校児童が通る場所に掲示した。

④ ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境づくり

教室にある掲示物、様々な荷物などは、児童の目に入り「妨害刺激」となるものが多い。そこで、余分な刺激物を減らしたり、必要に応じてカーテンで隠したりして、なるべくすっきりとした教室環境に心がけた。また、一日のスケジュールを明示し、一日の見通しをもって児童が活動することができるようにした。

(3) 地域との連携

① ゲストティーチャー・地域人材を活用した道徳の時間の工夫

○ 2年道徳「ぼくは2年生」

<ねらい>

困っている友達や幼い子に対して、思いやりの心をもって接しようとする気持ちを育てる。

<実践>

2年生になった主人公が、泣いている1年生をそのまましておかず、その子を勇気づけながら、学校へ連れて行く内容である。教師が範読を行う際、児童は資料を見ずに大型テレビに映された資料の挿絵を見ながら聞くようにした。授業の終末の段階で、ゲストティーチャー(児童の保護者)に自分が小学生の頃、年上の子に親切にされて嬉しかった経験を、自作の紙芝居を使い児童に話してもらった。

<考察>

大型テレビでの挿絵の提示は、資料への興味付けや人物関係と場面状況を捉えさせる上で有効であり、多様な考えを引き出すことができた。ゲストティーチャーの話は5分程度ではあったが、児童は集中して話に聞き入っており、ねらいとする価値が児童の心に響き、ゲストティーチャーの活用は効果的であった。事前に、話の内容・意図について十分打合せをしておくことが大切である。



【ゲストティーチャーのお話は面白いな】

② 道徳性の育成を図る地域に根ざした道徳教育の場の設定(あいさつ運動)

規範意識を高め、モラルを向上させるためには、地域全体が道徳教育に果たす役割を認識し、学校が地域とともに道徳教育を行っていくことが大切である。そこで、学校から地域への発信の方法としてあいさつ運動を行った。





【大きな声であいさつができたよ！】

<ねらい>

学校から地域へあいさつの輪を広げる。

<実践>

児童会役員と5・6年生の学級委員を中心に、登校時に校門であいさつ運動を行った。日頃から、児童は「相手より先に、笑顔で、大きな声で」をあいさつの合い言葉にしている。あいさつ運動では、この合い言葉を低学年児童にも浸透させるために、ポスターを作り、それを掲げながら運動を行った。児童は校門で出迎える児童会の役員たちだけでなく、交通指導の地域の方々にも進んであいさつをし、あいさつの声が地域に響いていた。児童

会が作成した振り返りカードには、多くの児童が、あいさつをすることができたと書いていた。

<考察>

「あいさつをしなさい」と言うより、活動の意味やねらいを明確に伝えることで、児童はあいさつの意義を理解し、実践できるようになってきた。あいさつ運動の後、6年生は最高学年という自覚から、誰に対しても自然に「こんにちは」と言えるようになってきた。6年生の意識変化に伴い、全校児童があいさつをすることへの抵抗感が減り、大きな声であいさつができるようになってきた。児童会役員が作った振り返りカードには、「あいさつをすると気持ちがいい」「自分からあいさつをすると、相手も大きな声であいさつしてくれた」「地域の人が笑顔であいさつを返してくれた」と書かれていた。児童は、あいさつを通して心が通い合う人間関係が始まることを実感することができた。2学期は、校内だけでなく地域の公共の場であいさつ運動を行い、学校から地域へあいさつの輪が広がるようにと考えている。

7/8 (月)	7/9 (火)	7/10 (水)	7/11 (木)	7/12 (金)
5人	27人	23人	21人	19人

振り返り  
 あいさつをしたら、相手の顔を覗いて、笑顔で挨拶をしたよ。  
 お友達も笑顔で挨拶を返してくれたよ。  
 地域の人にも挨拶をしたら、とてもうれしかったよ。  
 自分から挨拶をしたら、相手も大きな声で挨拶をしてくれたよ。  
 これからは、毎日運動会がからすわいさつを、大きな声であいさつをしよう。

振り返り  
 あいさつをしたマークの数を数えよう。  
 1こ  
 0こ  
 4こ

【あいさつがんばりカード】

## 5 研究の成果と今後の課題

### (1) 成果

- ユニバーサルデザインを道徳の時間に取り入れ、展開を工夫することで、どの児童も内容把握や人間関係の理解が容易にでき、自分の考えをもつことができるようになってきた。そして、話し合い活動も積極的に行い、多様な価値にふれることができるようになった。
- 「桜っ子しぐさ」で相手を思いやる心と態度が全校に広がってきている。「桜っ子スマイル集会」では、異学年交流を通して自分以外の他者を理解し、優しい態度で接することができるようになった。少しずつ児童に自他を認める心が育ってきたように思われる。

### (2) 今後の課題

- 保護者や地域と連携した活動はまだ少なく、今後も様々な方法で連携を深めていかなければならない。そして、児童が豊かな心（思いやり、感謝の気持ち）と道徳実践力を身に付けていけるような取組に努めていきたい。